

第27回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成30年3月22日(木) 10:00~11:50
会 場	市役所3階 3D会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、天羽浩委員、谷本雄司委員、武者加苗委員、桂裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	【企画課】川村企画財政部長、橋本課長、柴主査、佐々木主任

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していること」を確認した。

2. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、B委員を第27回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3. 議事

【議案1】重点プロジェクトについて

※推進計画に掲げる重点プロジェクトの方向性について議論
事務局より各種事業の概要について説明

<重点プロジェクトについて>

- ◆C委員：エコミュージアム普及推進事業において、まちを好きになる市民大学OB会会員数は増えているようだが、来場者数はどうなっているのか。
- 事務局：まちを好きになる市民大学は平成21年度から始まり、平成29年度で累計110人が卒業し、そのうち70人がOB会に入会している。平成29年度に募集した9期生は13人で、10期生は現在のところ9人の申込みがあった。
また、来場者数は、オープンした平成26年7月27日から平成30年3月19日までで、31,074人が来場している。
- ◆A委員：市内見学ツアーが目標120人に対し実績は38人とのことだが、バスツアーではどのようなことをやっているのか。
- 事務局：バスツアーは1回30人を上限に、年4回の開催を予定している。平成28年度は3回開催して、1回目は22人、2回目は7人、3回目は9人の参加であった。内容としては、市内を巡るほか、北海道博物館にも行くなどしている。参加者は市民やまちを好きになる市民大学の方が参加している。
- ◆A委員：ビジット・ジャパン地方連携事業として、北海道ゴルフツーリズムコンベンションへの参画とあるが、どういったことをしているのか。近隣市町村などとも連携しているのか。

第27回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- 事務局：北広島市では、海外のゴルフ観光客の誘客に向けての取組として、北海道ゴルフツーリズムコンベンションの負担金として、平成30年度は80万円を計上している。近隣市では、苫小牧市、千歳市、札幌市は参画しており、北海道観光振興機構や北海道ゴルフ観光協会とも連携している。
- ◆B委員：北広島市にはゴルフ場が多くあり、そういった資源を活かしてスポーツとして市外に発信していてもいいと思っている。また、ゴルフ以外にも自転車なども活かせるといいのではないか。
- 事務局：エルフィンロードなどの地域資源や観光・商業施設を活用した自転車を核とした観光施策を進めるため、観光振興課ではサイクルツーリズム等観光拠点整備事業を行っている。例えば、市内の観光・商業施設を自転車で巡るツール・ド・キタヒロなどを開催したり、首都圏の自転車に関するイベントでプロモーション活動を実施している。
- ◆D委員：東京北広島会の現在の状況について教えてほしい。
- 事務局：平成29年12月3日に東京において、設立総会を開催し、会を正式に発足させ、設立総会に合わせて、設立記念行事、交流会も実施した。会員数は1月末時点で79名となっている。
- ◆D委員：シティセールスに関連して、市で取り組んでいるおためし移住は人口増加にもつながると考えている。今後はURを活用するなど民間で行うことも考えられると思うが、今後の展開は。
- 事務局：おためし移住は、市所有の使わなくなった教員住宅を活用し、移住体験事業を実施して市外の方に北広島市の住み良さを実感してもらうという趣旨で平成26年7月より開始した事業であり、これまで50組、124名の利用実績がある。しかし、実際に移住に結びついたことはなく、夏場のショートステイに利用されていることも少なくない。また、住宅施設・設備の老朽化が進み、近年は大きな修繕（水道凍結、ボイラー交換など）が必要になるなど、施設維持管理経費の支出も目立つようになった。利用者のモニター発信によるシティセールスには一定の効果があるものと考えられるが、定住につながらないことなどを踏まえ、平成30年度の秋をもって終了したいと考えている。
- ◆D委員：レクの森やエルフィンロードを活かした体験型の観光を推進してもらいたい。他市町村ではフットパスといって市内を歩いて周るということをやっている。

第 27 回北広島市総合計画推進委員会 会議録

フットパスはお金もかからないし、いい取組だと思うが、北広島市では検討したことはあるか。

- 事務局：きたひろしま都市型観光推進協議会で北広島市の都市型観光の方向性について検討しており、その中で「北広島でアクティビティ！」ということで、キャンプ、農業体験、ゴルフ、サイクリングなど、家族全員が一人ひとりのお好みでアクティビティを楽しめる、冬はスキーのほか、スノーラフティング、スノーモービル、パラセールフライトもできる、など北広島市の特徴を活かした体験型の観光を推進する取組について検討している。

フットパスについては道内では別海町などで実施している。北広島市でも検討したこともあるが、民有地など立ち入ってはいけない場所をどうするかなどの課題もあり、実現には至っていない。

- ◆B委員：大学連携推進事業において、広葉交流センターに星槎道都大学のサテライトキャンパスがあるが、そこではどういったことを行っているか。

- 事務局：学生の作品展示や小学生の夏休みの勉強を手伝う取組、社会福祉学部においては、認知症の家族や地域住民の交流の場「認知症カフェ」の開催などの事業を行っている。

- ◆A委員：広報誌発行事業において広報アンケート調査を行っているとのことだが、どれくらいの頻度で行っているのか。

- 事務局：より良い広報紙作成のため、定期的ではないがアンケートを実施し、レイアウトの変更や紙面作成の参考としている。

- ◆委員長：広報誌発行事業において国支出金が平成 30 年度から 0 円となっているが、その理由は。

- 事務局：広報誌発行事業での国支出金は、事務委託金であるが、予算が確定していないことから平成 30 年度以降は 0 円にて記載している。

- ◆B委員：北広島団地イメージアップ事業の取組内容は。

- 事務局：平成 29 年度は主に団地地区の愛称等の制作及び団地ツアーを行った。愛称とロゴマークは、市民参加の場として市民 20 名による多世代交流サミットを開催し、そこで出された意見を参考に専門家にも協力いただき検討を進めてきた。また、別途担当職員による市民への街頭聞き取り調査も実施した。今後は市民に対し愛称をPRし、愛着を持ってもらうべく市ホームページ、広報をはじめ、北広島

第27回北広島市総合計画推進委員会 会議録

ふるさと祭りにおいて愛称に係るグッズの配布等を予定している。

- B委員：せっかく決めた愛称なので、広まるようにしっかりと取り組んでもらいたい。

4. その他（次回開催日程についてなど）

<事務局より説明>

5. 閉会

会議録署名委員
